

2022
11

あがらが主役
あがらが創る
あがらのまち

ありだし
社協
だより



小学校6年生児童代表が
毎月将来の夢を発信！
10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！



将来の夢

保田小学校 6年生



有田市社会福祉協議会
HPはこちら



NEXT ▶ 次号は、田鶴・糸我小学校から「夢」発信！

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金と寄付つき商品事業「JUST」による寄付金の一部で発行させていただいています。

第3次有田市地域福祉活動計画で重点課題として
いる「当事者の課題共有」
に対する取組です。



有田市を出て
コロナ禍に向き合う大学生
左から

大学2年 **中村沙耶**さん
大学3年 **嶋田 茜**さん
大学3年 **長田結依**さん

「夏季わかやまインターンシップ」として受け入れた3名の大学生。有田市を出て感じることで、コロナ禍という特殊な環境に思うことを話し、言葉にしてもらいました。

高校卒業後、有田市を出たいと思った理由は何ですか？



中村

一人暮らしがしたいという思いが有田市を出たいという一番の理由でした。時間に縛られることなく自由に暮らしたい思いが気持ちを強めました。また、別の土地で新たな人と出会い、広い視野や新たな考え方を取り入れたいという思いから、有田市を出たいという考えを持ちました。



中村さんの中学時代の思い出写真
写真中央の赤い集団は、初中ソーランを披露した中村さんたち。地ノ島での閉校前の貴重な体験です。

コロナ禍に大学生活を送ることになり、

どんなことを感じていますか？



中村

入学直後からのオンライン授業により友達もできない中で大学生活を送るのかと不安に思いました。いきなりのオンラインで授業への不安もありましたが、今は対面授業も増え友達もできて楽しいと感じています。



嶋田

まさか大学生活のほとんどを家で過ごすとは思っていませんでした。そして1人で家の中で過ごすことがこんなにも苦しく、辛いことだとは思っていませんでした。人と会って話したい、笑いたい、そんな気持ちを抱きながらも日々パソコンと向き合い、大学の課題に追われていました。



感染対策により、インターン期間も3人揃うのは、5日中2日のみ。業務の役割分担をして、成果発表をしてもらいました。



長田

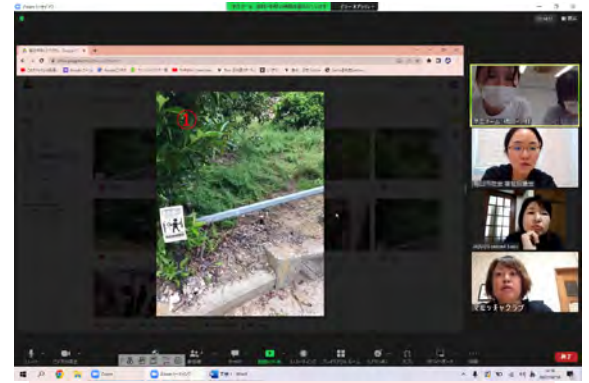
大学も3年目になりましたが、私の場合、いまだにオンラインでの授業が半数以上をしめています。大学へ行く機会が少ないことから、なかなか人との距離を縮めることができず、友達を作るのが難しいと感じています。想像していた大学生活とは程遠く孤立しているように感じる人が多いです。

今、有田市の皆さんにどんなことを伝えたいですか？



嶋田

大学に通いながら、人と人との関わりが希薄になっていると感じています。そんな気持ちから、今回の夏休みは自分の居場所を求めて有田市へ帰ってきました。しかし、伝統として受け継がれてきた祭りや地域の行事がコロナのせいで消えてしまったこの現状に寂しい思いを抱き、人と会う機会が少なくなっていると感じました。このままでは有田市が有田市ではなくなってしまう気がします。有田市に戻ってきたときには、「おかえり」と言ってくれる家族がいて、「久しぶりやなあ」と集まってくれる友人がいて、「おっきなっとなあ」と笑ってくれる近所の人がいる、そんな町が“有田市”だと思います。人と人が出会えるきっかけを作り、地域と子どもたちが繋がりを絶やさない“有田市”を私たちは目指したいです。



感染拡大期だったため、防災活動をしているマモッチャクラブからオンラインでヒアリングをおこないました。

有田市に戻りたいと聞きましたが、どんな想いからですか？



長田

知らない土地への下宿、そしてコロナ禍による人との交流の減少を大学生生活で経験してきました。家族や友人など知っている人がいる安心感を以前よりも深く感じるようになり、有田市に戻りたいと考えるようになりました。自分が育ってきた有田市という居場所があり、戻るという選択ができる状況であるということが幸せと感じます。

この3名の大学生は、サマーボランティア体験講座をテーマにしたインターンシップに申し込みましたが、コロナ第7波の影響でサマーボランティア体験講座自体が中止になってしまいました。ここでも体験活動を行うことができませんでした。

有田市社協は、これまでもさまざまな県内外の大学生と協働実践をしてきましたが、有田市出身の県外で暮らす大学生の思いをお聞きしたのは初めてです。今回、「当事者の声」というテーマに、大学生を選んだのは、この特殊な時代に、ふるさと有田市について思いを巡らせている若い世代がいることを知ってもらいたいと考えたからです。人口減少が進む中、有田市にとって若い世代はとても大切な担い手です。その世代の思いを知り、他世代が何を伝えていくか、何をすべきかを考えるきっかけになればと思います。

(聞き手 社協・宮本)

有田市ボランティア・市民活動応援助成 活用事例紹介

本紙5月号で募集した助成金は3グループに助成決定し、既に2グループで活用いただきました。

小さい団体は自主財源の確保に苦勞されている現状があります。今回の助成では、自分たちの研鑽・技術向上に努められたり、普段の活動に新しい試みを入れたりして参加者にも喜んでいただきました。



【助成グループ】

- 朗読ボランティア「ささやき」
助成内容：朗読の基礎研修開催（開催済）
- マモッチャクラブ
助成内容：防災ワークショップ（今後開催予定）
- ボランティアグループ「陽だまり」
助成内容：サロン活動での敬老のお祝い品（開催済）



ささやき様
福山ひでみさんによる
研修会の様子



陽だまり様
矢櫃地区サロン参加者と
敬老の手づくりお祝い品
を手に

本会の理事・評議員、事務局を担っている団体等から次の皆さまが受賞されました。

受賞 おめでとうございます

令和4年度和歌山県社会福祉功労者表彰

◆和歌山県知事感謝状

野井 泰子 様 (民生委員・児童委員功労者)

ボランティアグループ 陽だまり 代表 山下須美子 様 (福祉ボランティア功労者/団体)

◆和歌山県社会福祉協議会会長表彰

竹田 雄一 様 (民生委員・児童委員功労者)

有田市遺族連合会 松下 勤 様 (社会福祉関係団体役員・職員功労者)

有田市障害児者父母の会 狗巻 万喜子 様 (社会福祉関係団体役員・職員功労者)

野田 ちよみ 様 (社会福祉施設役員・職員功労者)

岩根 登代美 様 (社会福祉協議会役員・職員功労者)

脇濱 正子 様 (社会福祉協議会役員・職員功労者)

有田市社会福祉協議会 (優良社会福祉協議会)



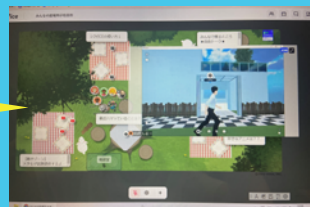
令和4年度和歌山県白梅賞

木原 見千子 様 (有田市社会福祉協議会)

寝っ転がってても
許されるでw

学校のある時間やけど
まあいいやん
とりあえず
一緒にいよ

アイコンだから
顔出ししなくてもいいよ!



大学生がワチャワチャ話しているのを
聞いてるだけでも楽しい!

バーチャル空間 oVice

毎週 金曜日 13:30-16:00

詳しくは
こちらのフォームで確認してください。
お申込みもこちらからです。



大学生と過ごす

みんなの

い ば しよ
居場所

近くの畑で走り回ったり
土いじりもできちゃう!



大学生と一緒におやつ作りとか
楽しいことをして過ごせるよ



保田地区にある秘密基地

毎月第4週 金曜日 13:30-16:00

どんな場にしていくかは
参加してくれる方と相談しながら進めます。
何もしなくてもいいし、一緒に遊んでもいい

ここにいてもいいんだ
と思える場をめざします。
秘密基地の場所はお問合せ 又は
QRコードからご確認ください。



主催 社会福祉法人 有田市社会福祉協議会

お問合せ 0737-88-2750

aridashi.shakyo@gmail.com

協力 摂南大学PBL×他大学チーム

合同会社ウイル